

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

基準 8-1-①： 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校は、市街地から約 3km 離れた高台の緑に包まれた教育にふさわしい環境の中に位置している(資料 8-1-①-1:P392)。

校舎敷地内の建物(資料 8-1-①-2:P393)としては、管理棟(校長室、会議室、事務室を含む)、講義棟(教室、LL 教室を含む)、専門学科棟(研究室、学生控え室を含む)、専攻科棟、附属施設(図書館、情報処理教育センター、地域環境テクノセンター、実習工場)が配置され、福利厚生施設である磐陽会館には、保健室や売店、食堂が設置されている。運動施設としては、第一グラウンド(陸上競技トラック、サッカーグラウンド、ラグビーグラウンド)、第二グラウンド(野球場、テニスコート)、第一体育館、第二体育館、武道館(柔道場、剣道場)、卓球場、プール等がある(資料 8-1-①-3:P394)。これらは高等専門学校設置基準に合致したものである。

LL 教室には、学生端末 50 台を備えたフルデジタルの CALL システムを導入しており、TOEIC 対策の市販ソフトが備えられている。また、情報処理教育センターが管理しているコンピュータ(Windows Enterprise)は、演習室 4 部屋で合計 160 台である。

現在まで段階的に耐震補強工事や学科棟の改修が行われ、それに応じて学生の自学自習環境整備のために研究室前にコモンスペースが設けられた(資料 8-1-①-4:P396)。また、車いす用トイレやエレベータの設置、階段のスロープ化等のバリアフリー化が進められてきている。

学生は、学内の施設・設備を 8:30 から 19:00 まで使用することができる。19:00 以降や土日祝日に使用する際には、担当の教員が押印した「施設使用許可願(資料 8-1-①-5:P397)」を学生課に提出し、許可を得た上で担当教員の管理下で使用することができる。これは学生のみによる事故を防ぐためである。

適切な安全管理が特に要求される施設は工作機械設備を有する実習工場であるが、実習工場での安易な作業は大きなけがや事故の原因となることから、実習工場の利用を許可制にしている(資料 8-1-①-6:P398)。利用に際しては安全教育や各工作機械の利用講習を受ける必要があり、許可された機械のみを使用できる。使用時には学生単独での使用を禁じ必ず複数人の学生で利用させ、安全を監督できる教職員の指導の下で使用を許可している。また、国立高等専門学校機構が作成した「実験実習安全必携」を活用し、実験・実習のガイダンス時に安全教育を必ず実施している。

日常的な安全管理は、安全衛生委員会(資料 8-1-①-7:P399)による週一度の定期的な学内巡視で行っている。その結果は安全衛生委員会で報告され、改善点があれば改善事項を学科長等に文書で伝え、学科長は改善された状況を安全衛生委員会に報告することになっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校は市街地から近い緑に包まれた環境の中に位置している。校舎敷地内には、管理棟、講義棟、専門学科棟、専攻科棟、附属施設、福利厚生施設が配置されている。運動施設としては、第一グラウンド、第二グラウンド、第一体育館、第二体育館、武道館、卓球場、プール等がある。これらの施設は高等専門学校設置基準を満たしたものである。平成21年度より順次改修が行われ、それに伴い校内

のバリアフリー化が進められている。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校では、情報処理の教育及び研究のために情報処理教育センターが設置されている。情報処理教育センターが管理する情報関連演習室は4部屋あり、それぞれの部屋には1クラス分(約40台)のパソコン(合計160台)が設置されている(資料8-1-②-1:P400)。4つの演習室のパソコンは校内LANを通してインターネットに接続されており、学生は各種情報関連科目の授業・演習の他、各種調査、実験データ整理等に活用できる。

校内には無線LANアクセスポイントが各所に設置され、学生は情報処理教育センターの許可を得て、ノートパソコン等で無線LANからインターネットへ接続することができる。インターネットへはBフレッツ回線でSINETへ接続し、全国の大学、高専及び研究機関はもとより、全世界と24時間情報のやりとりが可能である。情報処理教育センターの利用状況と無線LANの登録状況を(資料8-1-②-2:P401)に示す。

演習室のシステムはシンクライアント、ネットブートシステムとなっており、演習室パソコンの台数に依存せず容易にセキュリティ管理が行えるようになっている。原則全教職員は、校内LANに接続する場合マイクロソフトENDPOINT PROTECTIONによりウィルス対策等をするを義務付けており、また、各種サーバも同様の対策を施したセキュリティを確保している。

情報セキュリティ委員会(資料8-1-②-3:P402)により「福島工業高等専門学校情報セキュリティ管理規定(資料8-1-②-4:P403)」、「福島工業高等専門学校情報セキュリティ推進規定(資料8-1-②-5:P404)」、「福島工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規定(資料8-1-②-6:P405)」、「福島工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規定(資料8-1-②-7:P406)」が決められている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、情報処理教育センターの管理のもと、授業・演習や自学自習に使用できるICT環境が整備され、有効に利用されている。また、情報セキュリティポリシーも整備されている。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館は学習センターの役割を果たしており、教育及び研究に必要な図書資料を中心に、参考図書、教養書、美術書、学会誌、雑誌、視聴覚資料、新聞等が保管されている。これらの図書は、主に専門分野(学科構成に準じて)ごとにNDC(日本十進分類法)により整理されている(資料8-2-①-1:P407)。

図書館の管理・運営は、図書館運営委員会(資料8-2-①-2:P408)により行われているが、実際の運用は「図書館スタッフ株式会社」に全面委託している。

購入図書の選定は図書館運営委員が担当しており、専門学科に予算を配分し、専門学科教員の推薦により教育および研究に必要な図書（資料 8-2-①-3:P409）をバランス良く購入している。また、図書館内にリクエストボックスを設置し、学生の意見やニーズに応える仕組みも整備されている。特にユニークな試みとして、学生が教員と共に書店を訪れてその場で欲しい本を購入するという「ブックハンティングキャンペーン」があり、多くの学生が参加している（資料 8-2-①-4:P410）。

紙媒体の書籍に加えて、長岡技術科学大学によって提供されている電子ジャーナルコンソーシアムの利用や、科学技術振興機構によるJ-DreamⅢの学内利用が可能等、各種データベースの利用にも力を注いでいる。近年では「ヨミダス文書館歴史館」、「理科年表」、「化学書資料館」のトライアルを実施している。

図書館の利用状況を（資料 8-2-①-5:P411）に示すが、これより有効に活用されていることが伺える。

（分析結果とその根拠理由）

教育・研究上必要な図書や雑誌等の資料を学生のニーズも踏まえて購入し、専門学科毎に系統的に整理している。紙媒体の資料だけではなくデータベースの利用にも注力すると共に、ブックハンティング等の試みにより学生の利用を促進している。その結果、図書館の利用者数や図書の貸出数はともに多く有効に活用されている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- ・ 実習工場では工作機械使用時の安全を徹底するために、利用に際して安全教育の受講や工作機械の利用講習を義務付けている。
- ・ 情報処理教育センターは4演習室体制により、多くの学生に情報機器を開放している。
- ・ 図書館内へのリクエストボックスの設置や学生によるブックハンティングキャンペーン等により、学生の意見やニーズを反映させ、図書館の利用促進を図る独自の取り組みを行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（3）評価 8 の自己評価の概要

本校では、工業高等専門学校設置基準に則り、教育課程の実施に必要な教室、実験室、演習室、自習室、図書館、情報施設、自習・休憩施設及び食堂等が整備され、教員の管理下のもと安全かつ有効に活用されている。校内のバリアフリー化については、順次進めている。また、情報処理教育センターの管理のもとICT環境が整備され、学生に有効活用されている。図書館には、教育・研究に必要な図書が系統的に分類されており、利用率も高い。